

# 『東北圏だより』



## ～福島復興を支える～

復興庁 福島復興局

東日本大震災から6年4ヶ月余が経過します。原子力災害の影響で一部地域では今も避難指示が続く福島県ですが、復興に向けた動きは少しずつ、しかし着実に進んでいます。

避難指示が解除された楡葉町（一昨年9月解除）、南相馬市小高区（昨年7月解除）の小・中学校が再開し、4月6日、開校式や入学式が行われました。これまで避難先の仮設校舎で授業を受けていた子ども達は、それぞれの地元の新築・改修された明るい校舎で、授業を再開しました。各校には、希望に胸をふくらませる新入生の姿があり、上級生達は温かく迎え入れました。さらに、4月11日、新たに小高産業技術高校が開校し、開校式と入学式が行われました。同校は、産業革新科が新設され、高い知識と技術を身に付けた人材を育てる「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」の指定を、文部科学省から県内で初めて受けています。今後のイノベーションコースト構想（浜通り地域等をロボット産業等の先進的集積地にしていこうという国家プロジェクト）に寄与する人材の輩出が期待されています。



▲小高中学校入学式の様子

いわき市では、4月20日、東日本大震災の津波や火災の被害を受けた久之浜・大久地区に、共同店舗型商業施設「浜風きらら」がオープンしました。「浜風きらら」は、内閣総理大臣から「まちなか再生計画」の認定を受け国の補助金を活用して民間（浜風きらら株式会社）が整備した、県内で初めての商業施設です。施設には、生鮮食品や惣菜の販売、飲食店、衣料店や美容室等9つの事業者が入居しています。今後、地域の観光・交流の中心としてにぎわい、復興のけん引役となることが期待されます。



▲「浜風きらら」オープンの様子

福島県内には、今も避難指示が解除されない帰還困難区域があります。帰還困難区域の復興・再生に向けた環境整備、被災事業者の生業の復興・再生を担う組織の体制強化など必要な措置を講ずるため「福島復興再生特別措置法の一部を改正する法律」が5月19日施行されました。これからも被災者に寄り添い、思いを受け止め、被災地の復興・創生に向けて取り組んで参ります。引き続き皆様のご協力を、よろしくお願いいたします。

## 「第1回観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」を開催しました

### ～インバウンド拡大に向けて更なる連携を～

東北運輸局

政府は、「観光は、真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱である」との認識のもと、2016年3月に「明日の日本を支える観光ビジョン」（以下「観光ビジョン」という。）を策定し、「世界が訪れたいくなる日本」を目指し、各施策の実行に政府一丸、官民一体となって取り組むことを明確に示しました。

東北におけるインバウンド拡大については、これまで関係者と連携し取組を推進してきた結果、訪日外国人延べ

宿泊者数が2016年には64.1万人泊となり、2015年に震災前の水準を上回って以降も順調な伸びとなっ  
てはいるものの、「観光ビジョン」に掲げる東北6県の外国人延べ宿泊者数を2020年に150万人泊（201  
5年の3倍）とする目標を実現するためには、国土交通省のみならず、幅広い関係省庁、関係者等との連携・調整  
が不可欠です。

そのため、本年4月19日に、これまで訪日外国人の受入環境課題等を  
検討してきた「訪日外国人旅行者の受入に向けた東北ブロック連絡会」を  
発展的に改組し、今後より一層東北の関係者が緊密に連携した取組を推  
進するため、幅広い関係省庁等を新たに構成員に加えて「観光ビジョン推  
進東北ブロック戦略会議」を設置したところです。6月9日には、国土交  
通省より藤井国土交通大臣政務官を迎え第1回目の会議を開催し、関係  
者が連携して観光ビジョンに掲げられた取組を更に推進するため、訪日  
外国人旅行者の受入環境等に関する東北ブロックの現状・課題及び今後  
の方向性等を確認・共有しました。



▲第1回戦略会議で挨拶する藤井政務官

本年5月には、観光ビジョン実現に向けた政府の今後1年を目標とした行動計画として「観光ビジョン実現プロ  
グラム2017」が策定されたこともあり、インバウンド拡大に向けて関係者等との連携を強化し、外国人延べ宿  
泊者数150万人泊の目標実現に向け、各施策の取組をより一層推進して参ります。

## 都市景観大賞において、東北地方から2団体が受賞されました

東北地方整備局

都市景観大賞（主催：「都市景観の日」実行委員会）は、良好な景観形成に向けた取組の普及啓発活動の一環と  
して、毎年実施されている表彰制度であり、公共的空間と建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成さ  
れ、市民に十分に活用されている地区を対象にした「都市空間部門」と、小中学校等における景観まちづくり教育、  
まち歩きや景観に関するセミナーの開催など、景観に関する教育による意識啓発、知識の普及等に取り組んでいる  
活動を対象にした「景観まちづくり活動・教育部門」の2部門で実施されています。

本年度は、全国各地からの応募の中から、「景観まちづくり活動・教育  
部門」では、宮城県石巻市の「中央一丁目「街並み委員会」～震災を乗  
り越え、人とのつながりが息づく、歩いて暮らせる安全なまちを目指し  
て～」が大賞（国土交通大臣賞）を受賞しました。

中央一丁目「街並み委員会」は、震災復興に伴う区画整理事業の導入  
を契機に、地域住民が主体となり、「これまで」と「これから」のまちを  
考え、実践していく取組です。地域住民、大学、まちづくり会社、行政  
（石巻市）が立場を超えた対等な議論を行い、「市民協働を通じたまちづ  
くり」と呼ぶべき活動を行っています。

被災地における防災、街並み、コミュニティ等の課題をうまく連携さ  
せたまちづくり活動として高く評価されたものです。

6月16日に東京都文京区のすまい・るホールで行われた「まちづく  
りと景観を考える全国大会」の中で表彰式が執り行われ、代表の中央一  
大通り会 会長 林 光次郎 様に、藤井国土交通大臣政務官から表彰状が  
授与されました。

続いての「事例発表」において、石巻市 復興事業部区画整理第2課  
ご担当者様から、まちづくり活動の取組についての紹介がありました。



▲「街並み委員会」にて、模型を目の前に、  
自らの店舗の再建とまちの将来の両方を同時  
並行的に議論する様子



▲表彰状授与の様子

「都市空間部門」では、仙台市の中心市街地南西に位置する「東北大学片平キャンパス地区」（東北大学、仙台市）が特別賞（「都市景観の日」実行委員会 会長賞）を受賞しました。

近代建築に愛着を感じる市民有志の熱心な活動を背景に、歴史的建造物の保存・活用、新築におけるイメージ継承など、ミクロシティである大学内での景観づくりに価値ある成果が生まれており、開かれたキャンパス、賑わいづくりのさらなる展開が期待されます。



【東北大学片平キャンパス地区】  
▲中心市街地の一番町通りの突き当たりの北門周辺



【東北大学片平キャンパス地区】  
▲片平北門会館と北門周辺

これからも、東北各地の素晴らしい都市景観や景観まちづくりが全国に発信されていくように、皆様の取組を支援していくこととしております。

## 編集後記

「東北圏だより」にご寄稿いただいている構成機関の皆様、お忙しいところ記事執筆にご協力いただき、ありがとうございます。記事を拝見しますと各構成機関の活動を知るよい機会になっていると思います。各構成機関の皆様には引き続きご協力をお願いできればと思っております。

さて、7月に入りましたが、梅雨の時期、気温が高い日が多くなってきました。ニュース等で「熱中症」が取り上げられることが多くなりました。皆様、体調管理には十分お気をつけください。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：[thr-kou-suishin2@mlit.go.jp](mailto:thr-kou-suishin2@mlit.go.jp) ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。